

平成30年度

# 「運営に関する計画」

大阪市立矢田中学校

平成30年4月

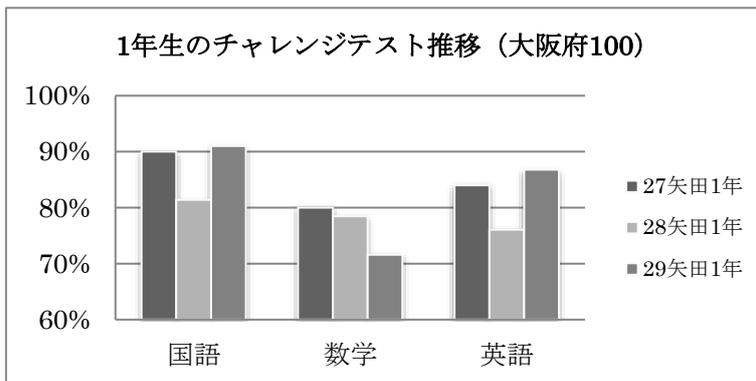
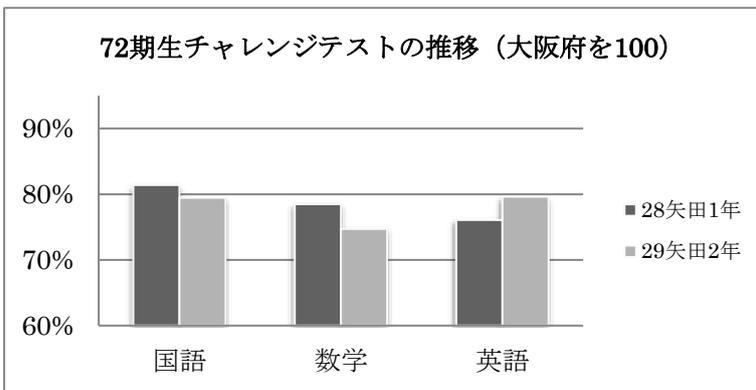
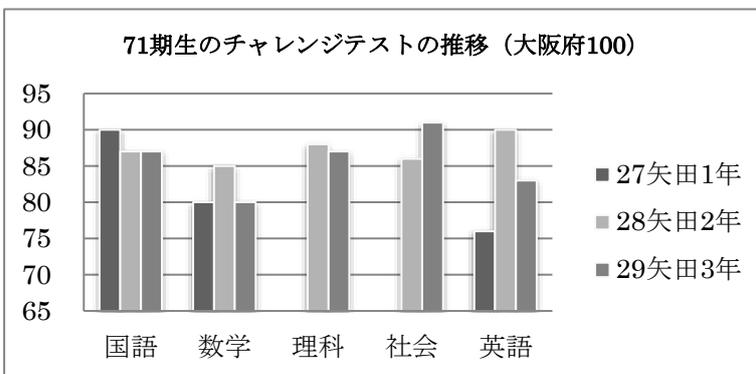
大阪市立矢田中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の客観的現状に目を向けると、生活保護率は20%、生活保護を含めた就学援助率は58%、両親がそろわない生徒の率が38%と大阪市平均に比べて極めて厳しい状況がわかる。また、30日以上欠席している生徒の割合は、昨年度の3年生で17.2%、2年生で12.8%、1年生で11.8%、全校平均で14.4%と全国と比較して5倍、大阪市と比較しても3倍と、極めて高い状況にあり、100日以上欠席者も13名(5.7%)となっている。この数値を見ると、当該事案も氷山の一角である可能性を疑われる状況である。遅刻者も年間で3000人を超えており非常に多い状況にある。

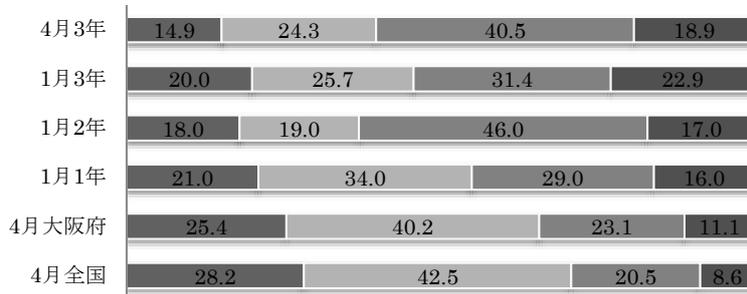
学力の状況を見ると、71期生(H29年度末卒)では、大阪府平均の75%~90%の得点力で、1年からの推移を見ても、国語で4%下降し、数学では2年生で一旦向上したが、その後の3年生で下降し、英語では、8%上昇した。理科では2年生から、1%下降し、社会では、5%上昇した。



た。全体的に見て学力を向上できたとは言えない結果であった。進路状況は、81人中80人が進学し、私学は100%合格、特別選抜は、6人中5人が合格(83%)、一般選抜は、55人中52人合格(95%)であり、例年より高い結果となった。72期生(現3年)では、国語で2%、数学で3%下降し、英語では4%上昇した。全体的には、大阪府の80%~75%の得点力である。1年生は、大阪府平均と比較して、国語で-9%、数学では-28%、-13%といずれも下回っており、特に数学での格差が大きい。全体的には、英語では多少の向上はみられるが数学では大きく下降傾向にあり今後の取組が必要である。

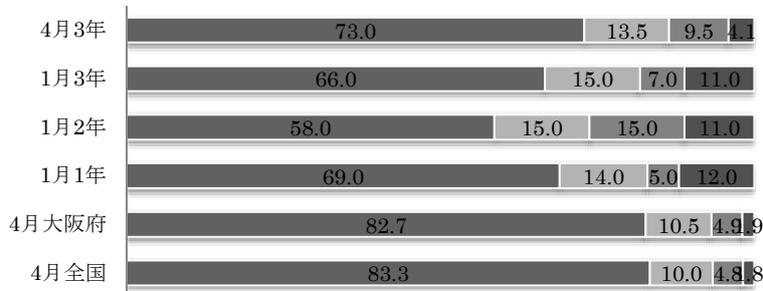
### 自分には良いところがある

■ある ■少しある ■あまりない ■ない



### 朝食を毎日食べていますか。

■食べている ■だいたい食べている ■あまり食べていない ■食べていない



とりわけ大きな課題と考えられるのが、左の2つのグラフで確認できる、自尊感情と基本的生活習慣に関わる課題である。4月は全国学習状況調査の結果を表しており、1月は校内での学校評価アンケートの結果である。3年生においては、自尊感情で大阪府平均を-26.4%と極めて低く、1月の時点でも6.5%回復しただけである。2年生ではなお一層低い状況であり、最優先の課題としてとらえる必要がある。基本的生活習慣においても、どの学年も低い状況であるが、とりわけ2年生（現3年生）においては、朝食をとらない生徒の割合が25%を超えており、学習や成長のみならず情緒にも大きな影響を及ぼしており、地域・保護者を交えた対応が必要である。

全国体力・運動能力・運動習慣

調査においても現3年生は例年に比べて課題の多い結果となっていることもふまえ、現3年生（1年次に「いじめ」事案が発生した学年）においては、あらゆることにおいて、大きな課題が残されている。卒業までの1年間、全力で課題解決に取り組む必要がある。

一方、生徒の安全にかかわっては、築44年を経過した校舎の老朽化が進み、特にトイレの衛生状態や、管理状況が課題となってきた。また、閉鎖する教室やフロアもあり、安全管理上問題もある。

生徒の健康面でも、6割近い就学援助率があるにもかかわらず、虫歯の治癒率は2割にも達しておらず、生徒たちの健全な成長を考えると問題である。その他、基本的生活にかかわって、睡眠習慣の問題や食習慣の問題も大きく、地域・保護者を巻き込んだ総合的な取組を構築していく必要がある。

#### 中期目標

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成29年度～32年度の年度末までのいじめアンケートで、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。
- 平成32年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成28年度より8%向上させる。
- 平成29年度～32年度の年度末までの校内調査において不登校の生徒の割合を、4年間で20%削減させる。
- 平成29年度～32年度の年度末までの校内調査において遅刻の生徒の割合を、4年間で20%削減させる。

- 平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を毎年 100%とする。
- 平成 32 年度の学校評価保護者アンケートの「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目の肯定的な意見を示す割合を 80%以上にする。(28 年度 68%・29 年度 80%)
- 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を 70%以上 (28 年度 61, 5%) にする。(29 年度 39.2%)
- 平成 32 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にすると心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度 (62%) より 8%向上させる。(29 年度 67%)
- 平成 32 年度の学校評価アンケートにおける「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度 (55%) より 8%向上させる。(29 年度 61%)
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の無答率を、大阪市平均を下回らないようにする。
- 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の正答率 30%以下の生徒の割合を昨年度より 8%削減する。
- 平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点が、大阪市平均を下回らないようにする。
- 平成 32 年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 35%以上にする。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査において合計点が、全国平均を下回らないようにする。
- 平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査においてむし歯の受診率を 4 年間で 20%向上させる。
- 平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査において給食のアレルギー事故を 0 とし、残食量を毎年 5 %削減する。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

### **【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】**

#### 全市共通目標 (小・中学校)

- ①年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- ②年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ④年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

#### 学校の年度目標

- ①年度末の校内調査における「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より 5%向上させる。
- ②年度末の校内調査において、遅刻の生徒の割合を、前年度より 10%削減させる。
- ③年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を 100%とする。

④年度末の校内調査において、「道徳の授業を前向きに取り組んだ。」の項目を肯定的に回答する生徒の割合を60%以上とする。

⑤年度末の校内調査における「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。

⑥年度末の校内調査において「学校では、人権を尊重し、大切に作る心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる

⑦年度末の校内調査（対保護者）における「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目に対して、肯定的な意見を示す割合を85%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

①中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

②中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。

③中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。

④年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

⑤全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、20mシャトルランの結果を大阪市平均並みに向上させる。

#### 学校園の年度目標

①年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を60%以上にする。

②平成30年度の大阪市英語力調査（英検I B A）における、3年生の英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。

③平成30年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにする。

④年度末の校内調査において、歯科の受診率を昨年度より5%向上させる。

⑤年度末までの校内調査において、給食のアレルギ－事故を0とし、残食量をできるだけ少なくする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

--

## 大阪府立矢田中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>①年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>②年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>③年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>④年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>①年度末の校内調査における「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p> <p>②年度末の校内調査において、遅刻の生徒の割合を、前年度より10%削減させる。</p> <p>③年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を100%とする。</p> <p>④年度末の校内調査において、「道徳の授業を前向きに取り組んだ。」の項目を肯定的に回答する生徒の割合を60%以上とする。</p> <p>⑤年度末の校内調査における「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p> <p>⑥年度末の校内調査において「学校では、人権を尊重し、大切に作る心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p> <p>⑦年度末の校内調査（対保護者）における「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目に対して、肯定的な意見を示す割合を85%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組(1) <b>安心安全</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 休み時間などの巡視徹底と行事ごとの来校者の受付を実施することで、子どもたちの安全を図る。</p> <hr/> <p>指標：年度末の校内調査における「この学校は、安心して学校生活を送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p>	

取組(2A) <b>いじめ対応</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 対策委員会を2か月に1度開催し、気になる生徒の情報交換を行う。また、毎学期いじめアンケートを実施し、教育相談などで個々に話を聞き対応する。	
指標：年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組(2B) <b>いじめ対応</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 「いじめについて考える日」には、校長の講話、道徳、生徒会で作ったアンケートを実施し、また「許すな、いじめ！矢田中3原則」を掲げる。	
指標：生徒会発信の「いじめアンケート」を1学期と3学期に実施し、①と②の項目で「ない」と回答した生徒の割合を、3学期には90%以上にする。	
取組(3) <b>不登校対応</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 対策委員会を2か月に1度開催し、気になる生徒の情報交換を行う。また、3日連続休んだ生徒に対しては、必ず家庭訪問を行い、新たな不登校生をつくらない体制をつくる。	
指標：昨年度、不登校生の数が21名と全校生徒の10%以上であったのを、8%に減らす。	
取組(4) <b>規範意識</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 生徒議会などで、生徒同士が積極的に規則について話し合う機会を設ける。また 全校集会やポスター、生徒会新聞などで全生徒に規則を守るよう訴えていく。	
指標：年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。	
取組(5) <b>遅刻対応</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 生徒会の朝のあいさつ運動を活発にし、生徒間で気軽に声を掛け合う人間関係づくりに取り組み、また職員が朝の登校指導で声をかけや、教育相談、保護者と連携することで遅刻の数を減らしていく。	
指標：昨年度より遅刻の数を10%以上削減させる。また、年度末の校内調査における「学校生活の中で時刻を守っている」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。	
取組(6A) <b>生徒会活動</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 生徒会新聞の発行、募金活動、全校集会の司会や生徒議会の活性化を図り、生徒会や委員長が活躍できる機会を増やしていくことで、リーダー育成を図る。	
指標：年度末の校内調査における「矢田中学校が好きである」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。	
取組(6B) <b>生徒会活動</b> <b>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 生徒会交流や地域活動に積極的に参加し、スクールリーダーを育成する。また 地域と連携し、地域少年防災リーダーにつなげていく。	
指標：年度末の校内調査における「地域でのいろいろな行事に参加する機会がある」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。	

<p>取組(7) <b>防災教育</b> <span style="float:right">【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</span>  避難訓練を2回、地域防災訓練を1回実施する。避難訓練では、防災計画の職員役割担当を活用し、職員の防災意識を高める。また、職員が生徒たちと真剣に活動に取り組むことで、生徒の防災意識も高めていく。</p> <p>指標：年度末の校内調査における「この学校は安心して学校生活を送られる」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p>
<p>取組(8) <b>美化活動</b> <span style="float:right">【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</span>  「居心地の良い」教育環境を美化の観点から整備し、みんなの協力で維持できているかを意識させるためアンケートをおこなう。</p> <p>指標：「協力して美化に努めた」という項目で過半数が肯定的な回答をすることを目指す。</p>
<p>取組(9) <b>道徳教育</b> <span style="float:right">【施策2 道徳心・社会性の育成】</span>  教科化に向けて35時間の授業時数の確保とローテーション授業を展開し、指導力向上のために指導案の作成と授業見学を行い指導力向上に努める。また感想カード、客観評価シートを導入し評価研究も行う。</p> <p>指標：年度末の校内調査において、「道徳の授業を前向きに取り組んだ。」の項目を肯定的に回答する生徒の割合を60%以上とする。</p>
<p>取組(10) <b>キャリア教育</b> <span style="float:right">【施策2 道徳心・社会性の育成】</span>  職業体験や進路学習を通して、自分の将来の夢や目標を持ち、中学卒業後の進路を自分自身で選択できるようにする。</p> <p>指標：年度末の校内調査における「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。</p>
<p>取組(11) <b>人権教育</b> <span style="float:right">【施策2 道徳心・社会性の育成】</span>  1人1人の人権を大切に、大切にすることを人権について学ぶ取り組みを通して育てる。</p> <p>指標：学校評価アンケート「学校では人権を尊重し、大切にすることを育てるための、さまざまな人権について学ぶ機会がある」の肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度よりも5%向上させる。</p>
<p>取組(12) <b>インクルーシブ教育</b> <span style="float:right">【施策2 道徳心・社会性の育成】</span>  全ての子どものための教育である「インクルーシブ教育」を基本とする考え方をもち、生徒一人ひとりの能力や困りごとに考慮し、みんなで一緒に学ばせるといった考え方を深めていく。</p> <p>指標：生徒や場所に合わせた指導・支援の行い方を学ぶため、障がい理解についての研修を年間3回以上行う。</p>
<p>取組(13) <b>図書館教育</b> <span style="float:right">【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</span>  学校図書館の活性化を目指し、蔵書の精査と配置の工夫など生徒が利用しやすい環境づくりと、本の紹介などの宣伝活動を積極的に行う。</p> <p>指標：図書館の貸し出し冊数を前年度より増加させる。</p>
<p>取組(14) <b>学校広報</b> <span style="float:right">【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</span>  学校ホームページを毎日更新するなど、学校情報の発信を積極的に行う。</p> <p>指標：ホームページ来訪者数を、前年度比で10%上昇させる。</p>

<p>取組(15) <b>地域連携</b> 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】  矢田7校の取組や、矢田中校区3校の取組に加え、保護司会や民生委員会との連携を強化し、情報共有のみならず、地域全体での支援体制の構築を図る。</p>	
<p>指標：年度末の校内調査（保護者）における「学校は、PTA や地域の方々とよく連携を図っている。」の項目で、肯定的な回答割合が前年度を上回る。</p>	
<p>取組(16) <b>家庭連携</b> 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】  PTAとの協力関係をより一層構築し、保護者と「顔の見える関係」を築く。</p>	
<p>指標：年度末の校内調査（保護者）における「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目に対して、肯定的な意見を示す割合を85%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

## 大阪市立矢田中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標 (小・中学校)</b></p> <p>○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、20mシャトルランの結果を大阪市平均並みに向上させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>○平成30年度の大阪市英語力調査(英検I B A)における、3年生の英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>○平成30年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにする。</p> <p>○年度末の校内調査において、歯科の受診率を昨年度より5%向上させる。</p> <p>○年度末までの校内調査において、給食のアレルギー事故を0とし、残食量をできるだけ少なくする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組(1) <b>自尊感情</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】</p> <p>自尊感情が全国・大阪市平均に比べ低い現状から、取り組みや指導を通して高めていく。</p> <p>指標：年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を60%以上にする。</p>	

<p>取組(2) <b>主体的・対話的で深い学び</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          学校生活の様々な場面で、グループワークやディベートなどの対話型の学習方法を積極的に取り入れる。また、そのための研修等を計画していく。</p> <p>指標：年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>
<p>取組(3) <b>放課後学習</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          Y Tを活用し、放課後も含めた学習を部活や学級・学年で学習を進めていく。積極的に取り入れる。また、そのための呼びかけや計画を示していく。</p> <p>指標：年度末の校内調査において、各学年・学級・部活動などでY Tを利用した回数を年間12回以上実施する。</p>
<p>取組(4) <b>家庭学習</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          家庭学習の習慣化を図るため、宿題や提出物を計画的に課す。そのための仕組みを、学校全体で検討していく。</p> <p>指標：学校評価アンケート（生徒用）の「宿題や提出物を期限内に出している」の項目で、肯定的回答率を前年度より向上させる。</p>
<p>取組(5) <b>国語科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          基礎学力の定着を図るために、視写、音読、暗唱、小テスト、読解スキルトレーニングなどの学習を繰り返し実施する</p> <p>指標：定期テストにおける漢字の平均正答率を70%以上にする。</p>
<p>取組(6) <b>社会科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          基礎学力の定着ために宿題、確認テストを行う。また、ICT 機器(プロジェクター、スクリーン、電子黒板)を有効活用する。グループ学習も適宜取り入れていく。</p> <p>指標：チャレンジテストにおいて、対府比平均95%以上とする。</p>
<p>取組(7) <b>数学科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          全学年、前年度より課題の量を増やし、基礎・基本事項の定着を促す。また、補習の時間を設け、学力の向上につなげる。</p> <p>指標：チャレンジテストにおいて、前年度の対府比を上回る</p>
<p>取組(8) <b>理科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          生徒が意欲的に理科の学習に取り組み、基礎学力の定着を図るため、ICT を積極的に活用し、実験・観察を多く取り入れる。</p> <p>指標：実験・観察を取り入れた授業を年間6回以上実施する。学年末の学習に関するアンケートにおいて、理科の授業が『わかる』の肯定的回答率を70%以上にする。</p>
<p>取組(9) <b>英語科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】          家庭学習を促すため毎回単語練習などの課題を出し、点検すると共に小テストなどを実施し、反復練習につとめる。</p> <p>指標：中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p>

取組(10) <b>音楽科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 曲ごとに基礎的な事柄を、ノートにまとめ、プリントで徹底する。音楽鑑賞の時間を増やし、歌唱とアルト笛を楽しむ心情を養う。ギターを整備を行い授業に使用していく。	
指標：忘れ物を減らし、音楽を愛好する生徒を増やす。	
取組(11) <b>美術科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 生徒が主体的に取り組み基礎基本の零着を図るためノートを活用し、小テストを行う。また、発想力を養うために実技として短時間スケッチを取り入れる。	
指標：小テストを年間3回以上行い、短時間スケッチを年間6回以上行う。	
取組(12) <b>保健体育科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 授業の最初の集合・整列・準備体操などのスタート時をしっかりと取り組ませ、切り替えのできる授業を作る。話を聞く態度を育成する。	
指標：忘れ物を昨年度より減らし、毎回の授業で2人以下にする。また、水泳の見学者数＝補習参加者数になるよう、嫌だから入らない生徒を無くす。個々の技の習得や技能の向上により体育の楽しさを味わわせ、不得意な生徒が体育好きになる割合を増やす。	
取組(13) <b>技術家庭科</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 基礎基本の技術や知識の定着を図るため、実習時間を増やす。小テストや技能の小テストなどを取り入れ学習意欲向上を図る。	
指標：小テストを学期に1回以上行う。事前に決めている到達点を生徒に達成させる。	
取組(14) <b>特別支援学級</b> 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 特別支援教育委員会の会議で生徒の情報交換を行い、職員会議で全教職員と共有する。	
指標：特別支援教育委員会の会議の情報を参考にして、年に2回（前期・後期で）、個別の指導計画を作成および見直しを行い、それぞれの発達の段階に応じた支援・指導を行う。	
取組(15) <b>英語教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 「デジタル教科書」を使用したり、「基礎英語 LEAD」のような ICT 教材を活用したりすることで、4技能（聞く、話す、読む、書く）の強化を図ることができるような教材づくりにつとめる。	
指標：平成30年度の大阪市英語力調査において、第1学年では英検5級以上の英語力を有する生徒の割合を80%以上、第2学年では英検4級以上を50%以上、第3学年では英検3級以上を50%以上にする。	
取組(16A) <b>ICT教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICT 機器について、その使い方などを広め、授業での活用を促すため、整備をすすめる。	
指標：職員アンケートをとり、「授業でどの程度 ICT 機器を利用していますか」の使用頻度「週に1回以上」の項目が全教員の過半数をこえる。	
取組(16B) <b>ICT教育</b> 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 隔週で来る ICT 支援員を活用し、研修等を通して、全教員が ICT 機器を有効に活用できるよう促す。	
指標：職員アンケートをとり、「ICT 機器を利用し、授業他さまざまな業務に活用している」の肯定的回答率を9割以上にする。	

取組(16C)	<b>ICT教育</b>	<b>【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</b>
タブレットを各学年視聴覚教室に整備し、授業での活用を促す。		
指標：授業を受け持っている全教員が、年間を通して1回以上、授業で活用する。		
取組(17)	<b>多文化共生教育</b>	<b>【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</b>
今年度より発足した人権委員会において、これまでの活動を見直すとともに、生徒の実態に応じて今後の取り組み内容を精査・検討し、学校全体で他者理解を深められるような実践を行っていく。		
指標：年度末の校内調査において、「学校では、人権を尊重し、大切にしている心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目について肯定的な考えを示す生徒の割合を、前年度より5%向上させる。		
取組(18)	<b>体力向上</b>	<b>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b>
春に計測した20mシャトルランの数値を、冬の数値を5%向上させるため、体育授業のウォーミングアップで、ランニングなどの持久系トレーニングを取り入れる。		
指標：全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにするとともに、20mシャトルランの結果を大阪市平均並みに向上させる。		
取組(19)	<b>部活動</b>	<b>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b>
顧問会議などで、情報交換や意見を出し合い、部活動の活性化を図る。また、教員の部活動の休養日に対する意識を高めるため、活動予定表や引率届を管理職に提出する。		
指標：年度末の校内調査における「部活動に入り、積極的に活動している」という項目で、肯定的な考えを示す生徒の割合を前年度より5%向上させる。		
取組(20)	<b>食育・眠育</b>	<b>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b>
基本的な生活習慣の定着化と自尊感情の向上を図るため、基本的な生活習慣の根幹であることを意識した食育・眠育に取り組む。		
指標：年度末の学校評価アンケートにおいて「自分にはよいところがある」「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。		
取組(21)	<b>性教育</b>	<b>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b>
自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成し相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することを目指して、発達段階に応じた性教育に取り組む。		
指標：年度末の学校評価アンケートにおいて「思うやりの心を大切にしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。		
取組(22)	<b>保健指導</b>	<b>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b>
生徒の自律的な健康課題解決と健康管理の向上のために、計画的・組織的な保健管理・保健指導を実践する。		
指標：年度末の校内調査において、歯科の受診率を昨年度より5%向上させる。		
取組(23)	<b>学校給食</b>	<b>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b>
食物アレルギーで配慮の必要な生徒の情報連絡を、日々密にする。食育つうしん配付時、食育に関する説明をして配り食育に対する、意識向上を図る。栄養教諭を招いた講話を検討していく中で、1学期と3学期の残食率を比較し、自らの健康管理意識を高めていく。		
指標：年度末までの校内調査において、給食のアレルギーの事故を0とし、残食率をできるだけ少なくする。		

<p>取組(24) <b>校内研修</b></p> <p>授業研究を伴う校内研修を行うことで、すべての教員が互いに学び合い、授業力の向上を図る。また、学習指導要領の改訂に伴う変化に対応すべく研修等を計画していく。</p> <p>指標：学校評価アンケート（生徒用）の「先生方は、授業の内容や教え方をいろいろと工夫している。」の項目で、肯定的回答率を前年度より向上させる。</p>	<p><b>【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b></p>	
<p>取組(25) <b>施設整備</b></p> <p>I C T教育推進の環境整備と鍵の再整備を前年度に引き続いて継続して取り組み。限られた予算内で、老朽化対策も着実に進める。</p> <p>指標：年度末の校内調査（保護者）における「学校は、校内美化など環境整備がなされている。」の項目で、肯定的な回答割合が前年度を上回る。</p>	<p><b>【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b></p>	
<p>取組(26) <b>小中連携</b></p> <p>小中の連携を強化し、情報交換を密にし、小学校からスムーズな中学校生活が送れるよう取り組みを進めていく。</p> <p>指標：子供達の中学校への部活動体験や授業体験（1回）に加えて、教師同士の授業見学や意見交換の回数を昨年度よりも増やす。</p>	<p><b>【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>		
<p>次年度への改善点</p>		